

# 子ども安全 ・安心通信



(事務局)

宮前区役所こども支援室

電話 856-3116

FAX856-3171

「子ども安全・安心協議会」では、平成20年度の重要活動として「地域安全マップ」事業に取り組んでまいりました。実施にあたっては、「宮前区地域教育会議」「NPO 法人防犯ネットワーク」の御協力をいただき全5回実施することができました。今年度のまとめとして、犯罪機会論に基づいた「地域安全マップ」の考案者である立正大学小宮教授をお迎えし、第1部として平成21年2月5日(木)に「講演会」を開催しました。第2部は平成21年2月8日(日)に「地域安全マップ研修」を実施しました。

## 《地域安全マップインストラクター講座》

### 第1部 講演会

テーマ「子どもを犯罪からどう守るか ～地域安全マップで人づくり・街づくり～」

犯罪の被害に遭わないために最も必要なことは、「人」でなく、「場所」に注意することです。なぜなら、「危ない人」は見ただけでは分かりませんが、「危ない場所」は見ただけで分かるからです。「危ない場所」は、だれもが入りやすく、だれも見えにくい場所です。ほとんどの犯罪はこの「入りやすく見えにくい場所」で起きています。いろいろな犯罪事例を基に、犯人の目線に立つ大切さや、地域安全マップづくりを通して、景色が読める(「KY」)子どもにし危険予知能力を高める「人づくり」の大切さ。さらに、落書き・散乱ゴミ・放置自転車など秩序感が薄い地域は、犯罪者に警戒心を抱かせることができないことから、無関心な人が多い見て見ぬ振りをしてしまう街をつくらぬよう、犯罪を未然に防止するために犯罪者に犯罪の機会を与えない「街づくり」の必要性。川崎トンネル女性殺人事件をきっかけに製作したトンネル壁画についても、「落書きができないと思うようなサイケな色とデザインが効果的である」と今後のトンネルアート製作にとても参考になる内容が盛りたくさんでした。



## 第2部 地域安全マップ研修

小宮先生のゼミの学生6名にインストラクターとして参加していただきました。宮前区役所を拠点に6グループに分かれ、各班ごと、班長・副班長・地図係・写真係など役割分担し地域を歩きました。ゴミもなくきれいな地域であると再確認しながらも、危険な場所はあるとあらためて認識しました。参加者の感想として「日頃から安全な街と思っていたが、子どもの目線で街を廻って見ると危険な場所が多いことに驚いた」「犯罪のおこりやすい場所（人ではなく）を知ることは、とても大切であり、身近にもそのような場所がたくさんあることがわかりました。大変勉強になり、とても楽しくマップづくりをすることができました。」「初めての参加で知らないということの連続でした。安全もただ安全でなくしっかりとした理由があって、危険なところもしっかりとした理由があるということが一番驚きました。」「マップをやり始めた頃にまわった道を今日歩きましたが、公園の木の刈り込みや、掲示板などが新しくなっていたりしたところを見ると（子どもの防犯意識もそうですが）大人の気づき、大人でまわることの大切さを感じました。大人のインストラクターづくりは、街づくりでもあるのではないかと思います」等の感想でした。参加者のみなさん1日お疲れさまでした。

### 《 各小学校区で行われた地域安全マップづくりの紹介 》

子ども安全・安心協議会では、平成20年度から「地域安全マップづくり」を重点事業とし、積極的に取り組んでいます。各小学校区で行われた、地域安全マップづくりを紹介します。

#### 《西有馬小学校区子ども安全・安心協議会》

##### 11月29日(土)実施

平成20年11月29日(土)、西有馬小学校区子ども安全・安心協議会の主催により、西有馬小学校にて地域安全マップづくりが行われました。土曜日の実施にもかかわらず、PTAの全面協力のもと、西有馬小学校の児童・保護者のほか、学校の先生やスクールガードリーダー、地域の方など54名が参加しました。

低学年児童は保護者と一緒に参加でき、特に父親の参加が多くみられました。低学年の児童とその保護者の班、高学年児童のみの班、保護者や先生・地域の方の班など各班ならではの楽しさあふれる研修でした。



1日をかけて、事前学習、フィールドワーク、地図づくり、振り返りの作業過程で、低学年児童、高学年児童、大人たちと、それぞれの特徴が活かされた地域安全マップになりました。低学年児童が一生けん命コメントを書いているシーンでは、児童の気づきを引き出そうとするお父さんがいる一方で、疲れて眠りこけているお父さんもいました。

班ごとの発表でも、大人や高学年の班はもとより、低学年の子どもたちも、しっかりとした気づきの発表があり、とても盛り上がりました。同じ班の中で、違うクラスや学年の子どもたちと一緒に歩き、相談し、役割分担をしながら一つのものを作ることで得られた経験も多かったようです。



## 《平小学校区子ども安全・安心協議会》

**12月3日(土)・12月12日(金)実施**

平成20年12月3日(水)・12月12日(金)、平小学校区子ども安全・安心協議会の主催の地域安全マップづくりが行われました。

12月3日(水)は、平小学校4年生の総合的な学習時間を使って行われる地域安全マップづくりのインストラクター養成を兼ねてのプレ地域安全マップ研修でした。参加者は平小学校の保護者・教員、向丘・行政区地域教育会議、安全・安心協議会運営委員、自治会他82名でした。参加者の感想のなかに、「ごみが捨てられっぱなし、自動販売機のうらにすき間があいている等、たくさん気づく点がありました。子どもと歩いたら、もっと気づくところがあると思います。」と次回への期待がこめられたものもありました。

平成20年12月12日(金)平小学校4年生の3クラス、106名の児童で地域安全マップづくりが行われました。18グループに分かれて、3日のプレ安全マップづくりでインストラクターになった方々の指導のもと行われました。まず、事前学習で「入りやすく、見えにくい場所」のキーワードをしっかりと覚え、北風の吹く寒い中フィールドワークに出ました。普段遊んでいる公園はどうか、掲示板の汚れ・壁の落書き・ゴミの放置など犯罪につながるポイントをチェックし記録をとり、さらに、地域の方に日頃犯罪で不安を感じている場所があるかインタビューも行いました。学校に戻ってからは、危険な場所や安全な場所の写真を貼り、その場所を選んだ理由などコメントを加えて地図を作り、各班ごとに気づいたことを発表しました。「危険なところがわかったので、学校の帰りには気をつけて帰りたいです。」「いつも話さない子と話ができてよかった。」など体験を通して楽しみながら学んだ子どもたちでした。



\*平成21年度も、宮前区内各地域教育会議、NPO 法人防犯ネットワークの御協力をいただき、地域安全マップ事業の広がりを図っていきたく思っております。様々な支援をしていますので、ぜひ、お問い合わせください。

問い合わせ先：こども支援室

## 子ども安全・安心協議会 連絡会議

平成20年10月24日 宮前区役所大会議室にて子ども安全・安心協議会連絡会議が開催されました。

連絡会議では、1. 平成20年度の各小学校区の子ども安全・安心協議会の取組状況の報告。2. 金山トンネルアートの報告。3. 宮前警察署、宮前区小学校校長代表、青少年指導員代表、スクールガードリーダーからの活動状況報告。4. 宮前区安全・安心まちづくり推進協議会から「青色回転パトロール状況」の報告。5. こども支援室から前期（4月～9月）不審者情報の報告がありました。

西野川小学校区では、地域教育会議と兼任する形で、昨年11月に西野川小学校区子ども安全・安心協議会が発足し、毎月第1・3火曜日の登校時にあいさつ運動をしているとの報告がありました。これにより、宮前区内にあるすべての小学校区に子ども安全・安心協議会が発足し、子どもの安全・安心について活動が行われていることとなりました。



子どもの見守り活動については、「いつも不審者情報のメール配信を確認して子どもの安全を心がけているが、メールの内容が雑ばくすぎて、声をかけてきたのが具体的にどういう人なのかなどを教えてくれないと警戒できない。もっと配信メールの内容を考えてほしい。」など、地域で子どもの安全を見守る立場からの意見もありました。



また、「登校時は子どもたちの見守りパトロールを行っているが、下校時は行っていないので、夕方のパトロール活動をやりたいが、アドバイスをほしい」との意見に対しては、「無理に人を集めるのではなく、本当に賛同してくれる方をお願いする方が良い」「一人でも良いから、無理をしないでやってもらうのが良い」「学校に協力してもらい、小学校から各学年の帰る時間をもとに各地区を子どもたちが通る見込みの時間割を作ってもらい、それをもとに、下校のポイントに老人会を中心とした地域の人々が立つようにしている。」などのアドバイスがありました。

他には、下校時にトラックの出入りが多く危険なのにもかかわらず誘導員がいない建築会社の資材置場について、地域と建築会社が交渉しているなかで、スクールガードリーダーにも建築会社と交渉を行ってもらい、少し改善したとの報告もありました。

宮前警察署からは、逮捕や補導をされた少年の件数報告や振り込め詐欺の被害報告のほか、「地域の見守りボランティアの活動は難しいが、犯罪者は人の目が怖いので、ベストやIDカードが付いているだけでパトロールをしているのだと意識するので、出来るところからで良いので、できることを行ったほうが良い。」など、各小学校区で行われている、子どもの見守り活動について、勇気づけられる話もありました。